

「平成29年度 キラリ！三瓶☆夏☆キャンプ」

1 趣 旨

日本海（海拔0m）から三瓶山頂（標高1126m）までの道のり（約35km）を、野外で宿泊をしながら、踏破することを目指す。この体験を通して参加児童に、自ら困難に挑戦し、やり遂げようとする力を養うとともに、家族と離れ、同年齢の仲間と集団生活をする中で、仲間の大切さや規範意識、集団との関わり方について気づかせる。また、活動の舞台となる三瓶山、石見銀山道をはじめ、周辺地域の自然、歴史、文化への興味・関心を高めることをねらいとしている。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成29年8月15日（火）～20日（日）【5泊6日】
- (2) 参加者 小学生20名（4年生8名、5年生8名、6年生4名）※募集20名
青年ボランティア10名（島根大学生8名、島根県立大学生2名）
- (3) 主な日程
- 平成29年6月27日（火） スタッフミーティング（趣旨説明、プログラム素案紹介）
 - 平成29年7月1日（土）～2日（日） 事前踏査①（道具点検・準備、三瓶山登山道の安全確認）
 - 平成29年7月14日（金）～17日（月） 事前踏査②（海岸の安全確認と救命訓練、銀山道の安全確認）
 - 平成29年8月14日（月） 前日準備

	8月15日（火）	8月16日（水）	8月17日（木）	8月18日（金）
6:00		起床	起床 テント干し	起床 テント干し
8:00		朝食（バイキング） 櫛島キャンプ場へ移動（バス）	朝食（野外炊飯） テント撤収	朝食（野外炊飯） テント撤収
10:00	受付・開会式 アイスブレイク	沖泊（おきどまり）港 ～銀の積出し港で 食料を調達しよう～	沖泊～大森のまち 銀山道① ～沖泊から大森の町 をめざそう～	大森～志学のまち 銀山道② ～大森の町から 志学の町を めざそう～
12:00	昼食（バイキング）	・海の安全確認 ・フィールドビンゴ 昼食（弁当）	昼食（おにぎり弁当）	昼食（野外炊飯）
14:00	～旅の準備をしよう～ ・班ミーティング・旗づくり ・キャンプ道具準備	・テント設営 ・食材調達 夕食（野外炊飯）		
16:00			荷物おろし	荷物おろし
18:00	夕食（バイキング） 安全指導・登山ルート相談	入浴（温泉津温泉：薬師湯）	テント設営（大森小学校） 夕食（野外炊飯）	テント設営（志学小学校） 夕食（野外炊飯）
20:00	入浴 ふりかえり	ふりかえり	入浴（湯迫温泉） ふりかえり	入浴（三瓶温泉：亀の湯） ふりかえり
22:00	就寝（セミナーハウス）	就寝（テント泊）	就寝（大森小：体育館）	就寝（テント泊）



3 事業の内容

(1) 事業の特色

5泊6日の集団生活を通して、目標に向かって仲間と共に挑戦し、困難を自分たちで解決する力を養うことを目指した。野外炊飯、テント泊など、自然の中での体験や、三瓶山、石見銀山遺跡など、歴史や文化に触れる機会も設けた。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

スタートの海（海拔0m）から三瓶山頂（標高1126m）まで、一連のコースを設定することで、子どもたちが、最終目標を明確にもて

	8月19日（土）	8月20日（日）
6:00	起床 テント干し 朝食（野外炊飯）	起床 朝のつどい
8:00	テント撤収	朝食（バイキング） 片づけ
10:00	三瓶山登山 ファイナルチャレンジ ～三瓶山の山頂を めざせ！～	昼食（バイキング）
12:00	昼食（おにぎり弁当）	～旅を終えて～ ふりかえり
14:00		閉会式・解散
16:00	荷物おろし	
18:00	夕食（野外炊飯 BBQ） ボンファイヤー	
20:00	入浴 ふりかえり	
22:00	就寝（セミナーハウス）	

るようにした。また、今年、世界遺産登録10周年を迎える石見銀山遺跡に因み、コースの大部分で銀山街道を通るルートを設定し、現地解説を行うなど、地域の歴史への関心が高まるよう工夫を凝らした。ファイナルチャレンジと位置付けた三瓶登山では、班ごとに目標や難易度を話し合い、それぞれが決定したコースで山頂をめざす、グループワーク登山を取り入れた。各班には、職員、ボランティアが付き、安全管理を万全にすると共に、子どもたちの自主的な活動、課題解決の様子を見守った。

4 成果と課題

○小学生アンケートの記述

私は恥ずかしがりやだったから、自分から声をかけることが今まではほとんどなくて、今回も最初は誘われる方だったけど、みんなと仲良くなるうちに、だんだん声をかけられるようになりました。みんなと一緒に歩いて、一人ではできないことも、助け合えばできる、ということを知りました。

- ・キャンプに参加してわかったことは、「友達の大切さ」、「自分に自信をもっていいこと」、「みんなと協力し合い、助け合うことの大切さ」です。友達がいなかったら、こんな楽しいキャンプにならなかったし、一緒に長い距離を歩けたから、「自分にもできるんだ」と自信ができました。
- ・キャンプのおかげで自信がついて、もっともっとたくさんのことにチャレンジしてみたいと思えるようになったし、石見銀山のことをもっともっと知りたくなりました。

○保護者アンケートの記述

- ・食事を作る大変さを感じたようで、帰ってから「お母さんは毎日大変なんだね…。と気遣ってくれました。そして、ご飯の支度やお布団の片づけなど、お手伝いをしてくれるようになりました。夏休みが終わった頃から「お姉さんになったね」と言われる機会が増え、少し雰囲気が変わった様に思います。
- ・最近の子どもたちは、習い事などで日々忙しい。少子化で、周りに同世代の子どももいない。夏休みとはいえ、なかなか友達とも遊べません。そんな中で、このキャンプはとても貴重です。やはり、体験することで、人は成長できると思うので、これからも色々な体験をさせてやりたいと思います。

○青年ボランティアの記述

- ・注意するときは注意する、見守るときは見守る、というメリハリが大切だと学びました。初日は、荷物運びで不満が出ていた子どもが、最後の登山中に「達成感を感じる」と言ってくれた時に成長を感じました。日数も多いので、スタッフ間の連携が重要だと思いました。

〈成果〉

- ・初日のアイスブレイクや旅の目標を込めた班の旗づくりなど、出会いの場面に工夫を凝らした。そして、最終日までの見通しをもち、段階的に活動に臨んだことで、児童自身も日々の成長を感じることができる、有意義な宿泊体験活動にすることができた。
- ・海での食材探しや、毎日の炊飯、テント泊など、様々な体験活動を提供することで、児童の体験活動への興味を高め、衣食住について、様々な気づきを引き出すことができた。また、地域の歴史や文化についても、多くの事柄を伝え、考えさせることができた。
- ・旅の途中には、難しい課題に直面する場面もあったが、仲間と課題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢や、乗り越えたあとに自信を深めるなど、今後の生活に繋がる経験をさせることができた。

〈課題〉

- ・使用する会場の設備、移動にかかる所要時間、安全面など、様々な項目について事前踏査を行い、活かすことができた。しかし、実際に児童が活動したり、天候も変化したりする中では、想定外のことでも起こり得る。職員、青年ボランティア、関係機関の事前の連携を密にし、急な事態にも対応できる体制づくりをめざしたい。
- ・参加児童に何を身につけさせたいのか、「意義」や「ねらい」をより明確にし、そこに向けての過程を職員、青年ボランティア全員が共有することで、より高い成果を得ることができると感じた。今年度の振り返りを丁寧に行い、次年度に繋げていきたい。



銀山街道



野外炊飯活動



男三瓶山頂

(企画指導専門職 武田 尚志)